

地球惑星科学委員会IUGG分科会IACS小委員会（第25期・第3回）議事要旨

1. 日時 令和4年11月22日（火）10:30～12:20
2. 会場 遠隔会議
3. 出席者 中村、東、青木、榎本、尾関、川村、杉浦、杉山、竹内、豊田
4. 議題

委員長から第25期第2回のIACS小委員会の議事要旨について説明があった後、以下の議題について報告及び議論を行った。

（1）IACSの動向

資料2に基づき豊田委員から説明があり、その内容について質疑応答を行った。その中でIACS小委員会の今後の活動と深く関わる内容について以下に記す。

・IACSが後援する事業は1件当たり最大2000ユーロの補助を受けることができる。若手研究者や開発途上国の研究者が国際学会、ワークショップ、サマースクールなどに参加する費用等を補助するもので、申請書に基づきIACS事務局が審査する。適切な予算執行が計画されている申請書であれば、採択される可能性が高いので、日本からの申請も採択される可能性がある。

・IACSの新しいワーキンググループが各部門で企画されつつある。海氷部門ではHead（豊田幹事）とDeputy Head（オーストラリア）が中心となってAntarctic Marginal Ice Zone Processes working groupを企画している。日本の関係者にも参加を呼びかけるので、積極的に参加して欲しい。

・2023年7月にベルリンで開催されるIUGG総会において事務局の委員の改選が行われる。豊田幹事が任期満了で委員を退任する予定。現在、委員を公募中であるが、引き続き日本からの委員就任が望ましいので、日本雪氷学会等のメーリングリストで、委員の公募に応募するように働きかけることになった。

・IACSではEarly Career Scientist Award 2023の推薦を募集中。日本からも積極的に応募するように、今後、日本雪氷学会等のメーリングリストで周知する。Early Career Scientist Awardは、優れた論文に対する賞であるが、論文の共著者が推薦することもできるので、大学院の学生を持っている大学関係者に積極的に働きかける。

・2023年にベルリンで開催されるIUGG総会にむけて現在準備中。豊田幹事もセッションのコーディネーターをつとめている。日本からの参加を積極的に呼びかける。

・IACSの今後の課題として、雪氷関連の最新の研究活動の支援のみならず、研究の裾野を広げる活動に注力する予定。日本でも日本雪氷学会等を通じてIUGG/IACSの活動の周知に努力することが必要と思われる。

（2）日本学術会議及びIUGG分科会の動向

・資料3に基づき、今年度のIUGG分科会が12月5日(月)開催予定であること、及び議事次第について委員長から説明があった。

・IUGGのEarly Career Scientist Awards(ECSAs)、Gold Medal、Fellowshipの募集があり、IUGG分科会からECSAsとFellowshipへの推薦を行ったこと、IUGG分科会が推薦した候補者がECSAを受賞し

たことについて、委員長から報告があった。

(3) 日本雪氷学会積雪分類ワーキンググループの活動

資料4に基づき、尾関委員から説明があった。その概要を以下に記す。

- ・ IACS が出版した「国際積雪分類」の和訳出版についての進捗状況に関する報告があった。
- ・ 「国際積雪分類」の和訳出版後、速やかに日本の積雪分類の改訂を行う必要がある。
- ・ IACS の国際積雪分類の出版と日本の積雪分類改訂の後で、新しい積雪分類の普及活動を行う必要があり、その方法を検討中である。

(4) 今後の IACS 小委員会の活動

- ・ 今後、積極的に Early Career Scientists Award への推薦を行うことが確認された。
- ・ 日本から IUGG や IACS の役員などを出すように努力することとなった。
- ・ IACS の Early Career Scientists Award や役員の募集について、今後、日本雪氷学会のメーリングリスト等を通じて、積極的にアナウンスを行うことになった。
- ・ 今後も従来通り、IACS 小委員会は年1回の開催とするが、これ以外にも必要に応じて開催することが確認された。

(5) その他

- ・ 国際電波科学連合へ日本が加盟して100年になるため、これを記念して日本学術会議との共催で、2023年8月に札幌で総会を開催する予定。中村委員が委員をつとめている。衛星観測など、IACS と関係のある内容も含まれるので、積極的な参加を呼びかけて欲しい。

<配布資料>

資料1：IACS 小委員会（第25期・第1回）の議事要旨

資料2：IACS の動向

資料3：日本学術会議及び IUGG 分科会の動向

資料4：日本雪氷学会積雪分類ワーキンググループの活動